

第3回委員会会議結果概要(案)

開催概要	
日時	平成24年1月26日(木) 17時00分～19時00分
場所	船橋商工会議所 会議室
参加者数	42名
出席委員	7名(◎遠藤茂勝、榊山勉、及川七之助、澤田洋一、中村泰利、歌代素克、佐々木洋晃) ◎:委員長
結果要旨	
<p>◇報告事項</p> <p>○1 第2回護岸整備委員会の開催結果概要</p> <p>事務局から資料1により説明後、質疑応答。</p> <p>[主な意見及び対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし <p>◇議題</p> <p>○2丁目護岸のバリエーション構造</p> <p>事務局から資料2により説明後、質疑応答。</p> <p>2案を提示(①区間100mのうち階段幅5.3m、②区間100mのうち階段幅7.6m)</p> <p>[主な意見及び対応]</p> <p>【案について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・②案が良い。 ・両側の石積み階段は1t石を用いるのか。護岸の安全性を確保できるのか。 ⇒50m区間よりも大きな石を用いる予定であり、間詰めコンクリートで一体化する。(事務局) ・全体を階段コンクリートで進めるのは考えた方がいい。今までの景観の議論もある。 ・両側の石積み階段をさらに広げて欲しい。 <p>【護岸緑化について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緑化は背後地で進めるべきで護岸には必要ないのではないか。 ・ポーラスコンクリートを入れると消波効果が得られにくい。護岸はいじらない方がいい ・波浪等の高波により緑化がダメになる可能性がある。 <p>【小段の石積みについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1t石が大きく、その間を非常に小さな石で間詰めしている。もう少し大きな石の捨石程度で間詰めしたら良い。 <p>【総括】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2案をベースに端部の石積み部を拡幅し、ブロックとの段差に留意する。 ・緑化は背後地に期待するものとし、護岸内では実施しない。 ・小段は、50mバリエーション区間より大きい石を用いて施工する。 	

○ 1 丁目護岸の端部構造

事務局から資料 3 により説明後、質疑応答。
港湾区域へ張り出さない「盛りこぼし式」を提案

[主な意見及び対応]

- ・ 棧橋が工事で支障になると認識している。移設費用は県で支出するのか。
⇒改めて個別に相談させていただく（事務局）
- ・ ブロックの配置で、現場コンクリートの部分は一体型なのか。それとの分割するのか。
沈下を考慮すると、一体化で打ってしまうと支障が出るのではないか。
⇒今のところ一体化構造を考えている（事務局）
- ・ 指摘について、十分配慮する必要がある（委員長）

○ 2 丁目護岸工事着手から 5 年後の検証評価

事務局から資料 4 により説明

- <防護>⇒目標達成基準「後背地の安全を確保」とするための
指標「耐震」が前年比 7% 向上（85%→92%）
指標「越流防止」が同じく 13% 向上（72%→85%）
- <環境>⇒①目標達成基準「改修後の石積護岸の潮間帯に定着」
「マガキの被度」が中潮帯で回復傾向、石積護岸が潮間帯のハビタット
（生息場）として機能しつつあるものとして評価できる。
- ②目標達成基準「周辺海域に洗掘等の著しい変化が生じないこと」
海底地形、底質（粒度）ともに季節的な変動は見られるものの、現在まで
著しい変化は確認できない。

○ 1 丁目護岸工事着手から 2 ヶ月後の検証評価

事務局から資料 5 により説明

- <防護>⇒目標達成基準「後背地の安全を確保」とするための
指標「緊急対応」が 52% に（0%→52%）
指標「越流防止」が 8% に（0%→8%）
- <環境>⇒①目標達成基準「現状の護岸部潮間帯の生物群集が再定着」
捨石工で潮間帯生物の再定着によりハビタットの基盤が概ね形成されて
いることが確認された。
- ②目標達成基準「周辺海域に洗掘等の著しい変化が生じないこと」
現在まで著しい変化は確認できない。

◇傍聴者からの意見等

特になし

以 上